



◎本ページをコピーしてご利用ください。

誘導基準適否 チェックリスト		設計者：	資格番号：
建築主：			
地域の区分 →P.26～27 ◎建設地の地域の区分を確認してください。		4 地域	

1 断熱材の熱抵抗R →P.8～13	◎断熱する部位と採用する断熱工法によって基準値が異なります。 ◎断熱する部位とその部位の断熱工法をチェックし、「断熱材の製品名と厚さ」及び「熱抵抗 R」を記入のうえ、基準適否を確認してください。 ◎1つの部位で複数の断熱工法を採用する場合は、それぞれの工法ごとに基準値を満たす必要があります。 ◎1つの部位に複数の仕様がある場合は、性能が低い仕様（熱抵抗 R が小さい方）について記入してください。 ◎該当する部位がない場合は、「該当部位なし」にチェックをしてください。
-----------------------	---

部 位	断熱工法の基準値	断 熱 材 の 製 品 名 と 厚 さ	熱 抵 抗 R [㎡・K / W]	適 否 確 認		
屋 根	☐ 軸組充填：R≧5.7 ☐ 枠組充填：R≧5.7 ☐ 外 張：R≧4.8	製品名（又は断熱材の種類）	厚さ mm	R	☐	☐
天 井	☐ 軸組充填：R≧4.4 ☐ 枠組充填：R≧4.4 ☐ 外 張：R≧4.8	製品名（又は断熱材の種類）	厚さ mm	R	☐	☐
壁	☐ 軸組充填：R≧2.7 ☐ 枠組充填：R≧2.7 ☐ 外 張：R≧2.3	製品名（又は断熱材の種類）	厚さ mm	R	☐	☐
床 （外気に接する部分）	☐ 軸組充填：R≧3.4 ☐ 枠組充填：R≧3.4 ☐ 外 張：R≧3.1	製品名（又は断熱材の種類）	厚さ mm	R	☐	☐
床 （その他の部分）	☐ 軸組充填：R≧2.2 ☐ 枠組充填：R≧2.2	製品名（又は断熱材の種類）	厚さ mm	R	☐	☐
土間床等の外周部分の 基礎壁 （外気に接する部分）※	☐ 軸組充填：R≧1.7 ☐ 枠組充填：R≧1.7 ☐ 外 張：R≧1.7	製品名（又は断熱材の種類）	厚さ mm	R	☐	☐
土間床等の外周部分の 基礎壁 （その他の部分）※	☐ 軸組充填：R≧0.7 ☐ 枠組充填：R≧0.7	製品名（又は断熱材の種類）	厚さ mm	R	☐	☐

※玄関、勝手口等の土間床部分の断熱を省略する場合には、当該部分を除く基礎壁について確認してください。

2 開口部(窓、ドア)の 熱貫流率U と日射遮蔽対策 →P.14～15

◎「製品名」及び「窓又はドアの熱貫流率U」「窓の日射熱取得率 η 」を記入のうえ、基準適否を確認してください。
◎複数の仕様がある場合は、熱貫流率Uについては性能が低い仕様（熱貫流率Uが大きい方）、日射遮蔽対策については、窓の日射熱取得率 η が大きい仕様を記入してください。

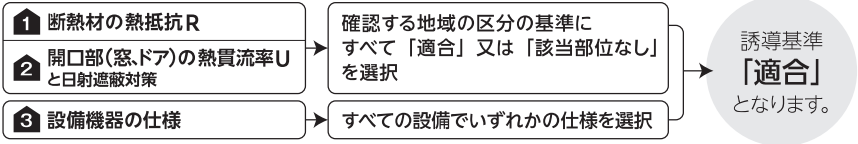
部 位	基 準 値		製 品 名	窓 又は ドア の 熱貫流率 U [W/(㎡・K)]	窓 の 日射熱取得率 η [—]	適 否 確 認		
	熱貫流率	日射遮蔽対策				該当部 位なし	適合	不適
窓	U≦2.3		製品名（又は建具とガラスの種類）	U			☐	☐
ド ア	U≦2.3		製品名（又は枠と戸の種類）	U			☐	☐

※設備機器の仕様は次のページへ記入

3 設備機器の 仕様 →P.16～17

暖冷房設備 右記のいずれかを選択	☐ 住戸全体を暖冷房	☐ ダクトセントラル空調機で、以下の全ての仕様に該当すること	☐ ヒートポンプ式熱源 ☐ 可変風量制御方式(VAV方式)であるもの ☐ 断熱区画内に全てのダクトを設置するもの ☐ 熱交換換気設備を採用
	☐ 居室のみを暖冷房	暖房と冷房の両方についていずれかを選択	主たる居室の居室設置する居室をチェックしてください。(その他の居室がない場合は主たる居室のみ) ☐ パネルラジエーターで以下のいずれかを熱源とし、かつ配管に断熱被覆があるもの ☐ 石油潜熱回収型温暧房機【エコフィール】 ☐ ガス潜熱回収型温暧房機【エコジョーズ】 ☐ 電気ヒートポンプ温暧房機（フロン系冷媒に限る） ☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が (い) のもの ☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が (い) のもの
換気設備 右記のいずれかを選択	☐ 熱交換型換気設備を ☐ 採用しない	以下のいずれかの設備機器であること ☐ 比消費電力が0.3[W/(㎡/h)]以下の換気設備 ☐ ダクト式第一種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上で、かつ DC モーター(直流)のもの ☐ ダクト式第二種 又は 第三種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上のもの ☐ 壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの	
	☐ 熱交換型換気設備を ☐ 採用する	以下の全ての仕様に該当すること ☐ ダクト式第一種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上、有効換気量率が 0.8 以上で、かつ DC モーター(直流)のもの ☐ 温度交換効率 が 70% 以上のもの	
給湯設備 右記のいずれかを選択	☐ 石油潜熱回収型給湯機【エコフィール】のモード熱効率 84.9% 以上のもの ☐ ガス潜熱回収型給湯機【エコジョーズ】のモード熱効率 86.6% 以上のもの ☐ 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】の JIS 効率 3.3 以上のもの	【共通条件】 分岐後の全ての配管径が 13A 以下のヘッダー方式、浴室シャワー水栓に手元止水機構 及び 小流量吐水機構を有する節湯措置、高断熱浴槽の採用	
照明設備	☐ 全ての照明設備が LED である		

誘導基準への適合確認のプロセス



誘導基準適否	
☐ 適合	☐ 不適

暖冷房設備

暖冷房する範囲を選択したのち、各々について該当する設備機器であることを確認し、☐ にチェックをしてください。

☐ 住戸全体を暖冷房

型番を記入

☐ ダクトセントラル空調機で、以下の**全て**の仕様に該当すること

☐ ヒートポンプ式熱源

☐ 可変風量制御方式（VAV 方式）であるもの

☐ 断熱区画内に全てのダクトを設置するもの

☐ 熱交換換気設備を採用

☐ 居室のみを暖冷房

型番を記入

設置室を記入

暖房と冷房の両方について、以下の**いずれか**の設備機器であることを確認してください。
「主たる居室」と「その他の居室」でそれぞれ確認する必要があります。
→「主たる居室」「その他の居室」は P.31 を参照

暖房

☐ パネルラジエーターで、以下の**いずれか**を熱源とし（選択してください）
かつ配管に断熱被覆があるもの → 「配管の断熱被覆」は P.31 を参照

☐ 石油潜熱回収型温暧房機【エコフィール】

☐ ガス潜熱回収型温暧房機【エコジョーズ】

☐ 電気ヒートポンプ温暧房機（フロン系冷媒に限る）

冷房

☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）のもの
（2地域は、熱交換型換気設備を採用すること）

(い)又は(ろ)を記入

%

☐ 居室のみを暖冷房

型番を記入

設置室を記入

暖房と冷房の両方について、以下の**いずれか**の設備機器であることを確認してください。
「主たる居室」と「その他の居室」でそれぞれ確認する必要があります。
→「主たる居室」「その他の居室」は P.31 を参照

暖房

☐ パネルラジエーターで、以下の**いずれか**を熱源とし（選択してください）
かつ配管に断熱被覆があるもの → 「配管の断熱被覆」は P.31 を参照

☐ 石油潜熱回収型温暧房機【エコフィール】

☐ ガス潜熱回収型温暧房機【エコジョーズ】

☐ 電気ヒートポンプ温暧房機（フロン系冷媒に限る）

冷房

☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）のもの
（2地域は、熱交換型換気設備を採用すること）

(い)又は(ろ)を記入

%

換気設備

熱交換型換気設備の採用の有無について選択したのち、各々について
該当する設備機器であることを確認し、☐ にチェックをしてください。

☐ 熱交換型換気設備を 採用しない

型番を記入

以下の**いずれか**の設備機器であること

☐ 比消費電力（熱交換換気設備を採用する場合にあっては比消費電力を有効換気量
率で除した値）が0.3[W/(m³/h)]以下の換気設備

☐ ダクト式第一種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上で、
かつ DC モーター（直流）のもの

☐ ダクト式第二種 又は 第三種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上のもの

☐ 壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの

☐ 熱交換型換気設備を 採用する

型番を記入

以下の**全て**の仕様に該当すること

☐ ダクト式第一種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上、
有効換気量率 が 0.8 以上で、かつ DC モーター（直流）のもの

☐ 温度交換効率 が 70% 以上のもの → 「換気設備の種類」は P.31 を参照

熱効率を記入

%

熱効率を記入

%

給湯設備

以下のいずれかの設備機器であることを確認し、☐ にチェックをしてください。

☐ 石油潜熱回収型給湯機【エコフィール】のモード熱効率 84.9%以上のもので、
ヘッダー方式※1、節湯※2、高断熱浴槽の省エネ対策をしているもの

熱効率を記入

%

☐ ガス潜熱回収型給湯機【エコジョーズ】のモード熱効率 86.6%以上のもので、
ヘッダー方式※1、節湯※2、高断熱浴槽の省エネ対策をしているもの

熱効率を記入

%

☐ 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】の JIS 効率 3.3 以上のもので、
ヘッダー方式※1、節湯※2、高断熱浴槽の省エネ対策をしているもの

JIS効率を記入

※1 ヘッダー分岐後の全ての配管径が 13A 以下

※2 浴室シャワー水栓に手元止水機構及び小流量吐水機構を有すること

☐ 設置しない（浴室等、台所及び洗面所がない場合）

設備機器の効率等 を調べる方法

一般社団法人 住宅性能評価・表示協会 のサイトから調べる

住宅性能評価・表示協会 <https://www.hyokakyoukai.or.jp/>

温熱・省エネ設備機器等ポータル

住宅版

非住宅版

暖房設備、冷房設備、換気設備、給湯設備から
効率を調べたい設備を選択します。

カテゴリー 一覧

大分類

☐ 全て

☐ 躯体の外気性能等

☒ 一次エネルギー消費量

☐ その他基準

中分類

冷房設備

検索

検索へ進み、調べたい事業者を選べると、
事業者の案内ページが開きます。

Web で 検索キーワードから効率等 を調べる

エコキュートの
JIS 効率を調べる例

(メーカー名) エコキュート JIS 効率

Web サイトで検索すると、メーカーのホームページで右図のように
JIS 効率を調べることができます。

左記のサイトに掲載していない場合や Web 検索で設備機器、効率等が不明な設備機器
はメーカーにお問い合わせください。

品番	タイプ	追焚き	容量(L)	設置(屋内外)	JIS 効率
#####001	フルオート	○	460	屋外仕様	3.7
#####002	フルオート	○	370	屋外仕様	3.8
#####003	フルオート	○	460	屋外仕様	3.5

出典(国交省): 木造戸建住宅の仕様基準ガイドブック【誘導基準編】(1～3地域版)
木造戸建住宅の仕様基準ガイドブック【誘導基準編】(4～7地域版)